

根室市地域公共交通確保対策協議会 令和4年4月1日設置



概要

根室市は北海道の最東端に位置し、人口23,546人（令和4年12月末現在）、総面積506.25km²で、東西に広がる細長い地形となっている。当市の人口は、昭和41年の49,896人をピークに減少を続けており、高齢化率は35.1%（令和2年国勢調査）と、今後さらに高齢化の深刻化が予想される。市の公共交通は、根室交通(株)が運行する8路線のバスをはじめ、スクールバスや都市間バスその他、タクシー事業者が3社、運転代行業者が4社、介護タクシーが2社となっている。人口減少等の影響から、バス利用者数は減少傾向となっており、今後も現在のバス路線網を維持することは困難な状況となっている。現在のバス路線網では、市全人口の約8割程度をカバーしており、特に市内東部地区では、バス路線が運行していない交通空白地域も存在するなど、市民の生活移動手段の確保に加え、新たな交通形態による地域にとって望ましい公共交通体系の構築が求められている。

○地域公共交通の現況

- ・JR花咲線
- ・スクールバス(9路線)
- ・根室交通(株) (市内8路線) ・スクールバス9路線
- ・根室ハイヤー、中央ハイヤー、ホクトタクシー 等

○地域公共交通の課題

- ・交通サービス維持のための財政負担や運転手不足
- ・人口減少に伴う継続的な利用者の減少
- ・交通空白地帯や交通弱者対策など、市民生活の交通手段確保

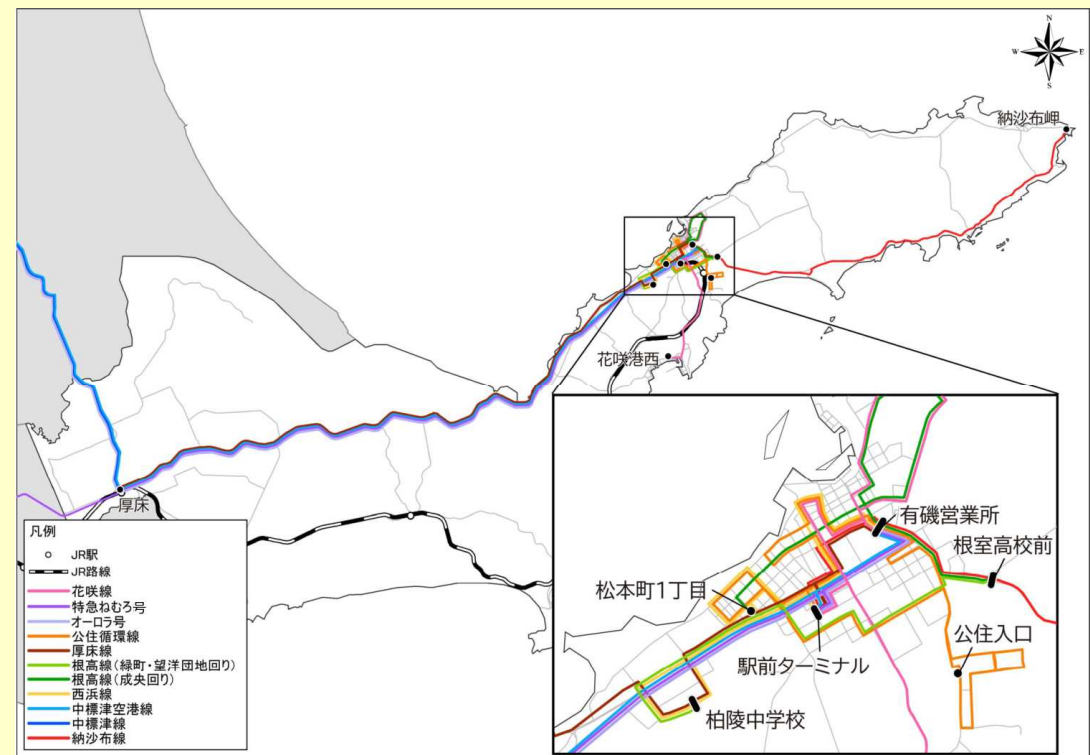
○調査の主な内容

- ・地域における市内バス路線の乗降調査実施
- ・地域住民のニーズ調査(アンケート調査、事業者ヒアリング)

○地域公共交通開催状況

- 令和4年4月1日 第1回協議会(書面会議)
 - ・規約の制定、部会の設置、事業計画案、収支予算案
- 令和4年9月27日 第2回協議会を開催
 - ・根室市の現況、今年度実施内容の確認

公共交通の概要



根室市地域公共交通確保対策協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

1 地域内の公共交通に関する現況調査

①調査目的

既存のバス路線等の輸送手段の利用状況を把握し、今後の継続的な確保・維持の必要性について把握するため、路線バスの乗降調査等を実施する。

②実施概要

(調査対象)

【乗降バス停のカウント調査】

乗降者数合計653人

調査員によるアンケート配布・回収の際に調査員による記録を実施

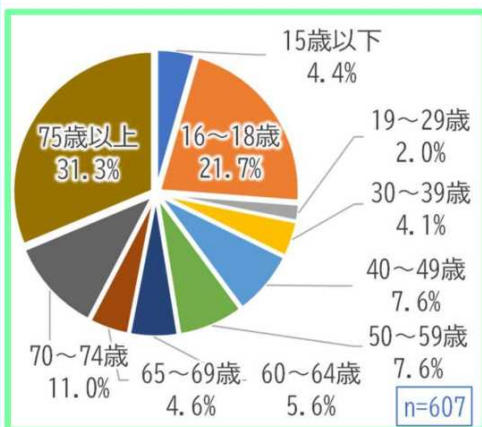
【アンケート調査】

配布数 623票 回収数588票(調査拒否35票に関しては年齢、性別、乗降バス停のみ調査員が目視で記録)

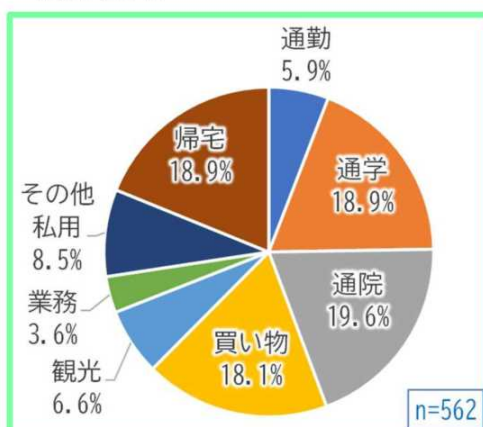
アンケート調査結果から、市街地を走る路線は通勤・通院・通学・買い物等の生活に係る目的で使われており、利用頻度も週に1回以上利用の割合が全路線で半数を超えていることから、日常生活を送るために重要な路線である。

バスに改善してほしい内容として便数やバスの大きさ等が挙げられていることから、通勤・通学ピーク時の輸送能力が不足している状況が想定され、ニーズにあわせた運行形態が求められている。

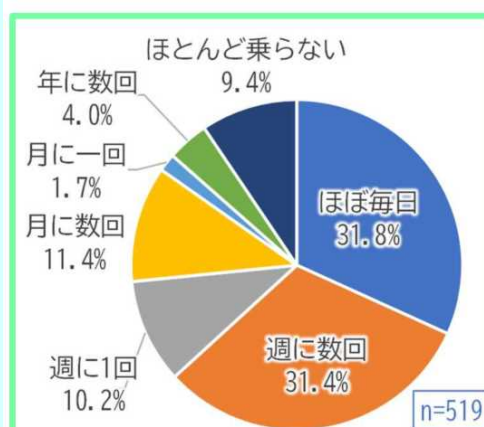
年齢



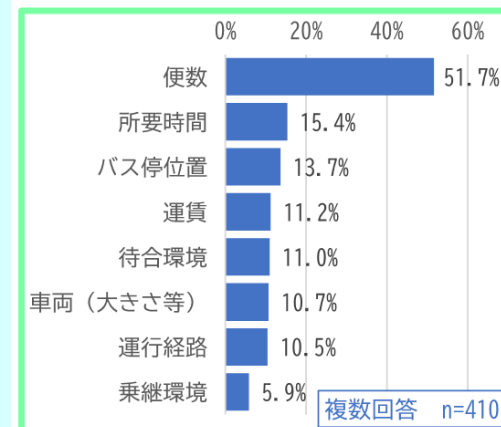
利用目的



利用頻度



バスの改善要望



根室市地域公共交通確保対策協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

2 アンケートによる地域住民のニーズ調査

①調査目的

根室市民の公共交通を含めた生活交通の実態や公共交通の住民ニーズを把握し、住民の生活交通を効率的に確保する地域公共交通計画 立案の基礎データを収集する。

②住民アンケート調査対象

根室市民3,000世帯(世帯ごとに2票配布)
回収数(回収率) : 901世帯(30.0%) 1,237票回収

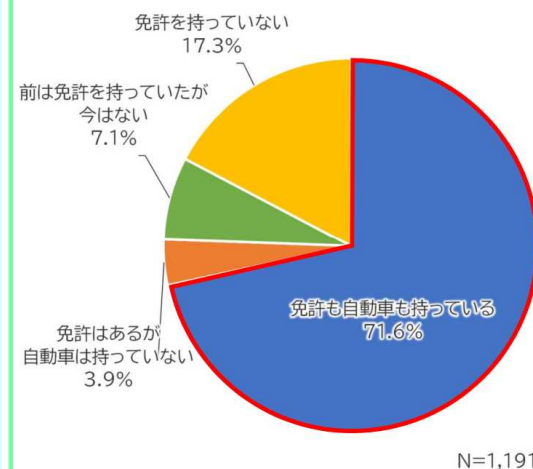
③調査項目

回答者属性/外出行動について/買い物時の交通について/通院時の交通について/
私用時の交通行動について/路線バス・予約運行型バスについて

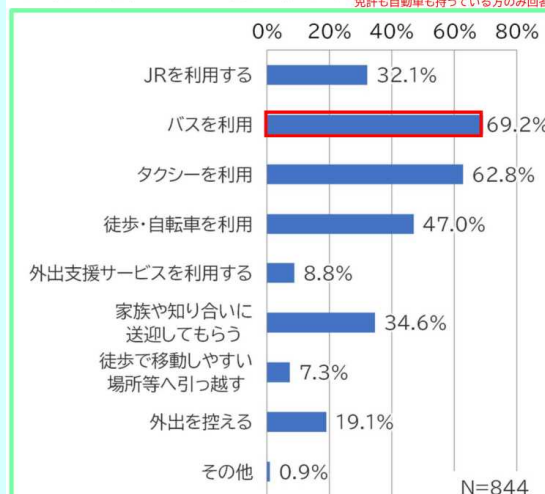
④調査結果

- ・回答者のうち、免許も自動車も持っていると回答した割合が71.6%と、自家用車に依存
- ・運転免許・自動車ともに保有の回答者中、運転中に危険を感じると回答した割合は78.1%
- ・運転が困難になった際にはバス、タクシーを利用する意向はあるが、
- ・スマートフォンは72.5%が所持しており、電話・メールの利用率が高く、情報の確認・発信は抵抗感がない
- ・免許返納した際の買い物・通院を心配する割合が高い。年齢が増すごとに通院の頻度は高くなり、家族の送迎やバス、タクシーを利用している割合が高い
- ・また、年齢が増すごとに病院送迎バスが運行された際の利用意向が高くなっており、通院の足を確保する必要がある

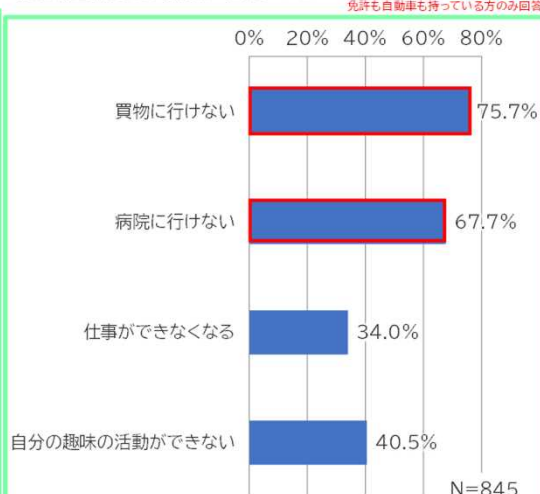
免許所持状況



運転が困難になった際の移動手段



免許返納した場合に困ること



3 市民意見交換会 (2月中に実施予定)

①調査目的

- ・アンケート結果や乗降調査からみられた課題や要望等を紹介しながら、新しい交通への転換の可能性など、地域ニーズに応じた望ましい交通体系を目指すため、市民から意見を得る。

根室市地域公共交通確保対策協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

	現状・問題点
人口	人口減少・少子高齢化 ・R2年には25,000人を下回り、減少し続ける予測 ・R2年には高齢化率35%で、将来は増加する予測
都市構造	人口分布 ・市街地中心部に人口が集中 ・市街地中心部に高齢者が点在 施設分布 ・市街地に施設が集中 ・花咲、厚床、東部地区にも施設が立地 ・納沙布岬をはじめとした観光施設は広域に分散
JR・バス	JRの役割 ・市内の地域間や市外への移動手段として機能 路線バスの役割 ・市内の地域と市街地間の移動手段として機能 ・高速バスは市外との移動手段として機能 JR・路線バス利用者の低迷 ・根室駅の乗降客数、路線バス利用者は減少傾向
移動支援	公的資金投入額の増加 ・優待乗車券事業等の独自の移動支援策も実施 ・移動支援に係る補助金額は年々増加しておりR3年には1.2億円
ヒアリング調査	路線バス運行への要望 ・乗客からの現在運行していないエリアでの運行の要望 観光利用の促進 ・JR、路線バス共に観光客向け施策が好評 ・路線バスではSNSの利用が効果的に作用 モード間の連携の可能性 ・JR、路線バス共に連携施策を模索
アンケート	タクシー会社の人員不足・高齢化 ・タクシー会社では運転手の不足・高齢化が深刻 高齢者のための交通の確保 ・免許返納後にはバス・タクシーを利用する意向 ・年齢が増すほど買い物にバス・タクシーを利用 ・年齢が増すほど通院にタクシーを利用
乗降調査	郊外と市街地を結ぶ交通の確保 ・どの目的においても目的地は根室市街地が多い ・予約運行型バスの利用意向が高く、特に郊外部では予約運行型バスに払える金額が比較的高額 市街地を走る路線 ・1便当たりの乗車人数が10.0人を超えている ・各地区から市街地中心部への利用が多数 郊外を走る路線 ・厚床線は利用者数が著しく小 ・納沙布線は観光利用が4割と多い ・中標津線、空港線は根室市内の利用は小 ・特急ねむろ号は通院利用が3割 ・時間帯によって利用者が0人の便がある

	課題の整理
	JRの維持・利用促進の検討 ・市外からのアクセスで欠かすことのできない交通手段の維持 ・利用者を増加させるための取組の増加
	市街地を走る路線バスの効率的な運行 ・市街地を走る路線バスは、通勤・通学、買い物で利用されており、利用実態に合った便数、時間帯の調整により、更に利用しやすい公共交通の実現が必要
	郊外と市街地を結ぶ交通の検討 ・郊外からも根室市街地へ買い物・通院入行っている状況である一方、利用者が減少しているため、ニーズにあった公共交通の運行が必要
	生活に合ったバスの再編の検討 ・路線バスについては路線、時間帯によって利用者が著しく少ない便があり、時間帯、ルートについて見直しの検討が必要 ・予約運行の利用意向が高く、現在バスが運行していないエリアからの利用意向の声もあるため、予約運行型バスの検討が必要
	ICTを活用した一体的な観光客誘致 ・路線バスではSNSを利用したプロモーションが好評であり、更なる利用促進のため、ICTの活用が必要 ・JR、バス事業者の両者が連携した利用促進を進める必要があると感じていることから、一体的な利用促進策の展開による観光客の誘致が必要
	運転手不足を解消するための施策の検討 ・タクシー会社では運転手が高齢化・不足しており、より効率性の高い公共交通の確保・維持のための施策が必要
	わかりやすい情報提供 ・根室市内にはJR、路線バス10路線、タクシー3社が運行していることから、それら交通手段について、高齢者でも利用しやすい環境づくりが必要

基本方針
生活交通と観光交流を促進する持続可能な公共交通体系の構築

	基本目標(施策イメージ)
	市内の公共交通体系の見直しによる移動の足の確保・維持 ・市街地の路線の見直しやICT技術を活用した予約運行型バスの運行など、新たな公共交通体系の検討 ・郊外線のニーズに即した新たな運行ルートや選択と集中による運行形態等の見直し検討 ・乗降環境の改善による安全で安心な環境の構築 ⇒商業施設・医療施設における公共交通乗降環境の改善 ⇒広域交通との接続性に配慮した運行時間や乗り継ぎ環境の改善
	広域交通に係る公共交通の確保・維持 ・JR花咲線・都市間バスの維持に向けた改善方策の検討 ⇒市内線の乗継との連携 ・利用の少ない路線の存廃も含めた見直し検討
	観光振興と公共交通の一体性の確保 ・企画乗車券や観光施策による利用者の確保 ⇒JR花咲線における観光振興施策の継続と新たな取組みの検討 ⇒路線バス等に係る予約運行や1日乗車券などICT技術を活用した持続可能な公共交通体系の構築 ⇒JR花咲線と場路線の相乗効果に資する一体的な利用促進
	利用者と運転手の確保等による持続可能な公共交通体系の維持 ・総合的な情報発信によるJR花咲線、路線バス、タクシーなどの利用者数の確保による公共交通サービスの維持 ⇒バスマップや公共交通チャラシの作成など ・AIデマンド交通、MaaS、バスロケーションシステムなど、ICT技術の活用による効率的で効果的な輸送体系の検討 ・住民や交通事業者、観光関連事業者との意見交換会や説明会等による継続的なニーズ把握と改善方策の検討 ・高齢者の免許返納に資する割引制度など、利便性の高い公共交通サービスの継続・検討

根室市地域公共交通確保対策協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

基本目標1:市内の公共交通体系の見直しによる移動の足の確保・維持

- ①市街地の路線の見直しやICT技術を活用した予約運行型バスの運行など、新たな公共交通体系の検討
- ②郊外線ニーズに即した新たな運行ルートや選択と集中による運行形態等の見直し検討
- ③乗降環境の改善による安全で安心な環境の構築(商業施設・医療施設の公共交通乗降環境の改善、広域交通との接続性に配慮した運行時間や乗り継ぎ環境の改善)

基本目標2:広域交通に係る公共交通の確保・維持

- ④JR花咲線・都市間バスの維持に向けた改善方策の検討⇒市内線の乗継との連携
- ⑤利用の少ない路線の存廃も含めた見直し検討

基本目標3:観光振興と公共交通の一体性の確保

- ⑥企画乗車券や観光施策による利用者の確保(JR花咲線における観光振興施策の継続と新たな取組みの検討、路線バス等に係る予約運行や1日乗車券などICT技術を活用した持続可能な公共交通体系の構築、JR花咲線と場路線の相乗効果に資する一体的な利用促進)

基本目標4:利用者と運転手の確保等による持続可能な公共交通体系の維持

- ・総合的な情報発信によるJR花咲線、路線バス、タクシーなどの利用者数の確保による公共交通サービスの維持(バスマップや公共交通チラシの作成など)
- ・AIデマンド交通、MaaS、バスロケーションシステムなど、ICT技術の活用による効率的で効果的な輸送体系の検討
- ・住民や交通事業者、観光関連事業者との意見交換会や説明会等による継続的なニーズ把握と改善方策の検討
- ・高齢者の免許返納に資する割引制度など、利便性の高い公共交通サービスの継続・検討

●事業実施の適切性

事業実施は、適切に実施したと評価しており、事業者との協議を計画策定時より行ってきたことで、次年度より事業が円滑にできることが予想される。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄